

| | |
|-----|--|
| 日時 | 令和2年2月7日（金） 9時15分～12時00分 |
| 科目 | 演習 |
| 内容 | 旧ロシア領事館を題材に創建時の材料劣化から修理方法の検討 |
| 講師 | 公益財団法人文化財建造物保存技術協会 事業部 管理室 参事 中内 康雄 氏 |
| 参加者 | 35名（技術者：23名，特別聴講者：12名） |



グループごとに、撮影者が選んだ2枚の写真についてメンバーに説明



グループのメンバーが撮影した写真を，外観，1階，2階，地下，小屋裏の5エリアに分類し，各興味を持った箇所ごとに残したい理由を記載



グループごとに一番残したいものや場所を選び、その方法を議論



中内講師にアドバイスを貰いながら議論を進める

参加者ごとに、興味を持った箇所や残したい箇所として選んだ理由は様々であるため、グループごとに個人の考えを共有し、ものの痕跡や劣化状況から、建設当時の材料や工法を判別する。

建築当初の状態と、新しく手を加えたデザインの違いなど、今までの研修の成果を踏まえ、議論を行う。

| | |
|-----|--|
| 日時 | 令和2年2月7日（金） 13時00分～15時30分 |
| 科目 | 演習 |
| 内容 | 発表・総評 |
| 講師 | 公益財団法人文化財建造物保存技術協会 事業部 管理室 参事 中内 康雄 氏 |
| 参加者 | 33名（技術者：23名，特別聴講者：10名） |



発表の様子

A班

技術者：7名

(大工：1名、板金：2名、左官：1名、塗装：1名、瓦工：1名、建具：1名)

特別聴講者：2名

※ 職種は演習（グループワーク）の参加者。

○ 気になった箇所・理由

〔外 観〕 屋根：屋根の変遷。

〔地 下〕 ボイラー室の壁に設けられた金属製フック：基礎に設けられていることから、火災前からあったものか。何かの道具をかけていたと考えられる。

〔1 階〕 天井の中心飾りのレリーフ：自分ではできない技術であるため。

〔2 階〕 建具（照明器具）：上下反転して取り付けられているものがある。

〔屋根裏〕 煙道：暖房効果も期待している造りであると考えられる。



B班

技術者：5名

(大工：1名、板金：1名、建具：1名、左官：1名、塗装：1名)

特別聴講者：3名

○ 気になった箇所・理由

〔外 観〕 外壁等が剥がれた箇所：当時の施工方法が分かる。

〔地 下〕 ボイラー：ボイラーに漆喰が塗られている。

〔1 階〕 天井：他の文化財建造物では見られない造りである。天井を仕上げる際、梁が見えないよう化粧で隠していると考えられる。

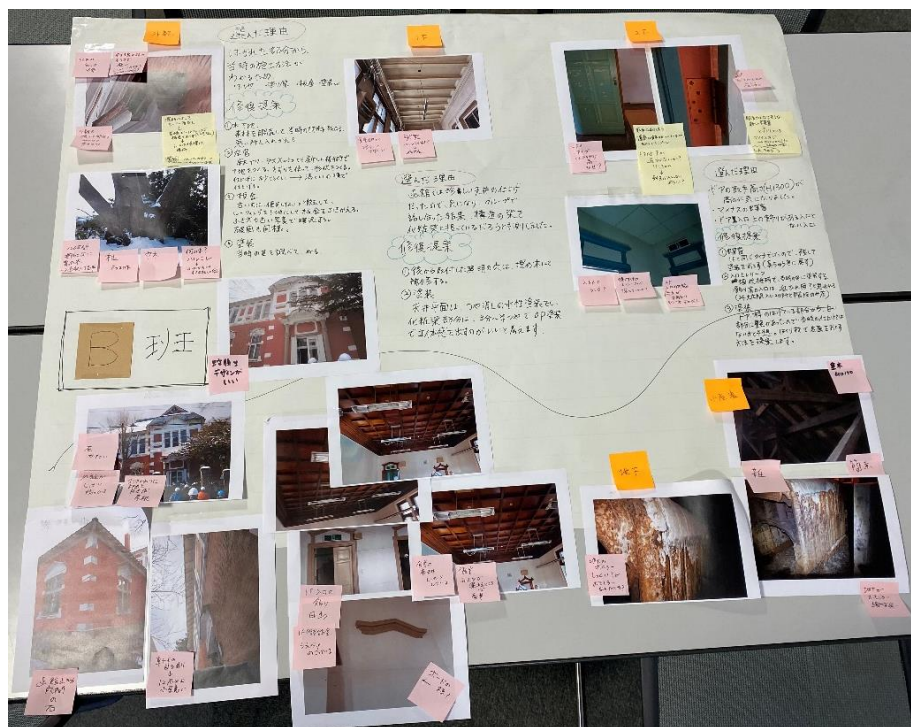
〔2 階〕 建具（ドア）：ドアノブの高さが異なること。蝶番のねじが真鍮製のマイナスねじであることから、昭和以前にアメリカから輸入したものであると考えられる。

〔屋根裏〕 小屋組：垂木が簡素である。

○ 修繕提案

〔外 観〕 外壁等が剥がれた箇所：塗装や材料が剥がれた箇所から当時の施工方法を知ることができるため、痛んだ材料の入れ替えの際には、下地は現在の技術を用いてメッシュを張り、仕上げは当時の工法を用いる。
 屋根：金属屋根はルーフィングを施し、板金を葺き替える。

〔1 階〕 天井：塗装の際は、平面部分はつや消しで梁部分は3分～半艶とし、立体感を持たせる。



C班

技術者：3名

(左官：1名, 石工：1名, 建具：1名)

特別聴講者：2名

○ 気になった箇所・理由

〔外 観〕 外壁：外壁に使用されているレンガ，石，モルタル若しくは漆喰などの材料は，何がオリジナルなのか調査する必要性を感じる。

サロン：外部建具は腐食が進んでいる。

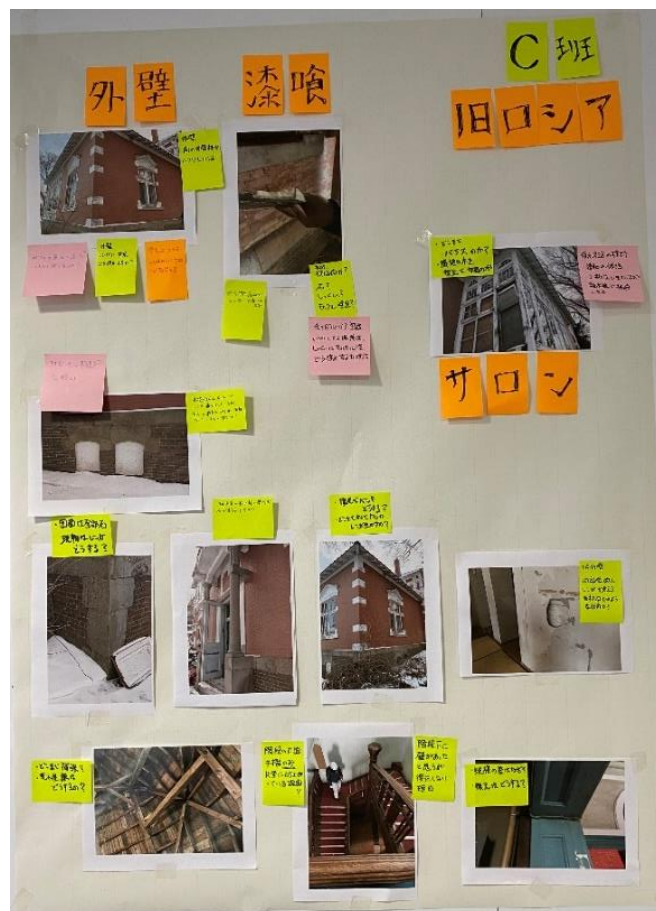
〔1 階〕 階段手すり：上枠と側枠で化粧の深さが異なる。

〔2 階〕 内壁：内部壁内にレンガが見えるため，当初はどのような状態であったのか。

〔屋根裏〕 小屋組：どの程度補強すべきか。小屋床はどのようにすべきか。

○ 修繕提案

〔外 観〕 サロン：建具を直す場合は，上部の材料を残して，下部のみ取り替えることも考えられるが，作業性を考慮すると全体を解体した方が良くと考えられる。



D班

技術者：3名

(大工：1名, 左官：1名, 石工：1名)

特別聴講者：3名

○ 気になった箇所・理由

〔外 観〕 サロン：外壁の腐朽が進んでいる。

入口： 唐破風が一部破損している。レリーフの原型は何か。

柱：長物の丸柱が使用されており、現在は採石不可能な函館山の安山岩ではないかと考えられる。熱に強いため、大火前から残っているのではないか。

〔地 下〕 ボイラー室の壁：向かいの壁などはモルタルの仕上がりが粗く、スロープ周りのみきれいな仕上がりとなっていた。いつ頃どのような目的で仕上げたのか。

〔1 階〕 食堂：同じ室内でありながら、建具の鴨上の飾りに違いがある。別室の事務室や相談室の鴨上には異なる形状の飾りであったことから、格式・目印・利用上の差別化など、用途別で使い分けていたと考えられる。

〔2 階〕 建具（ドア）：ドアによってドアノブの高さが異なる。

○ 修繕提案

〔外 観〕 サロン：腐朽の進んだ外壁をどのように修繕するか検討。

現況と同じ工法では腐朽を繰り返すため、外観を変えずにどのように残すと良いか。サロンの外部建具の改修では、建具枠と土台で出入りがあるため、水切りを付けると水の流れが良くなり、土台の腐朽が抑えられる。



E班

技術者：5名

(大工：2名, 板金：1名, 塗装：1名, 畳工：1名)

特別聴講者：2名

○ 気になった箇所・理由

〔外観〕 塗装：なぜレンガの上に塗装したのか。 施工が適切に行われていたのか。

〔地下〕 床梁：無垢材が長く、もし現在使用されているような集成材を使用した場合、何年耐えられるのか。

〔1階〕 階段：階段のアーチ形状が手の込んだ造りとなっている。

〔2階〕 畳：畳の敷き方。

〔屋根裏〕 小屋組：元の屋根は瓦であったため、小屋組の垂木は大きい物を使用している。必要と考えられる柱が抜けている箇所がある。屋根の下地に使用されている材料は何か気になった。

○ 修繕提案

〔外観〕 外壁：既存塗装は剥離剤を塗布してレンガの目地を見せる。



中内講師の演習総評

2階外壁のデザインは、木造のデザインをレンガと漆喰で表現していると考えられる。先代の職人は、屋根の桎板をヒバ板で葺いていたとの話がある。手を加えていかなければ残らないのが日本の木造建築で、残す技術や修理する技術は日本だけであり、外国では遺跡として残っているものが多い。歴史的建造物は時間が経過していることが素晴らしく、残っているという実績を大事にし、建物をよく見て工事してほしい。また、なぜ残すのか、残していく必要があるのか、技術者として考えてもらいたい。

所有者が大事にした建物を残す仕事に携わった際は、建物に使われている技術に対し、感動や疑問を持ち、技術者同士が活発に議論し、協力しながら楽しんで取り組んでほしい。

函館には、近代歴史の建物が多く残っているため、携わる機会があったときは、興味を持って取り組んでほしい。

基礎工事において凍結や沈下に配慮するなど、先人たちが北海道で苦勞し、工夫した技術は、歴史的な建物に残っているため、そのような技術に気付いたときは、物から学ぶことを楽しみ、残してほしい。

技術は繋がっている。そのことを学び、気付いてほしい。そして、仲間同士で話し合ってもらいたい。



中内講師の演習総評

| | |
|-----|---------------------------|
| 日時 | 令和2年2月7日（金） 15時30分～16時00分 |
| 科目 | 終了式 |
| 参加者 | 33名（技術者：23名，特別聴講者：10名） |



主催者代表の挨拶



修了証書授与